

## 榮光と映画

### 訓育主任 シュトルテ

父兄同伴でなく、映画に行つていけないという校則は、映画狂いの現代こそ、我が榮光学園の美点の一つである。あくまでも正しい道を辿ることに努力している、榮光の生徒の真の道しるべである。榮光精神は、祖のままになびく蓋の如く世間の流行に従つてあちこちと動くのではなく、永遠の神の不動のおきてである。心の清さを奪うには、映画ほど強いものはないと云つても過言ではない。どういふ映画が多いと云うことは、悲しむべき事実である。全々映画を見ないものは損失を伴はないのに対して、よく映画を見る者の精神的害は大したものである。映画館との附近とは不良の盛り場であるといふことも考へられる。然し映画は総て悪い。映画館に入る人は総て不良だと云えないのは云うまでもない。知識をひろめる映画、又はよりよい人間になろうとする決心を刺戟する映画、または健全な娯楽となる映画はまず少ないのである。雑誌や新聞などの映画の批評などは大人を対象としているので、生徒自身で映画のよしあしを判断するのは困難なことがある。なんといつても映画の悪根は教育の立場にあると学校がしなくてはならないのである。であるから、榮光の精神を充分にのみこんだ生徒は、親または学校の意見を聞いて後でよい限り、何かに映画を見ないようにする、きである。その上に映画館のふんいきと趣向とを考慮して、どんなよい映画であったか、中学部の生徒は父兄同伴でなくては、映画館に入るのは行儀である。三年前以上栄光に通つて、確りした道徳的基礎を築いた客の高等学生に、父兄同伴を要求したくないが、親または先生と相談した上で行くのは榮光高校生のとるべき方法だと思ふ。

さて、映画の悪い生徒は、具体的になにをしなければならぬか。中学生は必ず父兄同伴（父田または親の了解を得て二十才以上の大人）でなくてはならない。但し、中学校PTAなどの主催で上映されるものは、独りで見てもよい。高等学生は、親の了解を得て訓育主任と相談

し映画鑑賞許可証を貰う。それまでの時に必ず所持しなければならぬ。

ここまで読んで、学校の立場は解らない、罷らうとしないものは、榮光生徒の資格がない。その者は根本的に考え直すかきつぱりと学校と關係を絶つて

## 始業式

九月九日（土）、午前九時から本校講堂に於て、始業式が行われた。日本語の校歌に始まり校長先生、ヘルヴェク先生に四十余日ぶり式辞を頂戴し、更に今度米國からお帰りになつて皆の喜びの的となつて居るシュトルテ先生も壇上に立たれ、そして第一期オナス校長の後英語の校歌を以つて式を閉じた。長い夏休みは終つた。生徒が校歌を歌い始め、壇上から、第二期は始つた。壇上に立たれた校長先生はまずこの始めの言葉を述べ、ついで夏休み中に働いた一人一人がどうに態度の反省を促され二期期に入つてますますその必要の仕まつた僕達のすべき行動、西郷の苦勞、先生の努力、校内設備が備へられたら影響を感謝し、よくそれに土着するように勉強し、將來の土台をしっかりと築き上げて、この悪と不潔の沢山集つて居る社会と責任を以つて勇ましく戦えるようにすべきである」を解かれた。

ヘルヴェク先生も義務に於いて、人のことをあれこれと云わずに、自分の義務をいひも考へて実行すべきだ、と述べられた。三人目はシュトルテ先生だつた。

自分にふさわしい学校に移るより仕方がないのである。以上の規則に違反する者に対しては、学校当局は場合によつては退校処分とする。榮光精神を乱すものがないように、諸君の努力を望む。

## 新任及び受持変更

### 物理教室 小柴先生

最初に、日本に帰られてから目についた生徒のだれてきたことに對して反省するように云われ、それから、在米中に手紙を送つた者に対してお礼を云われ、その返事がいぢい書けなかつたことを述べられた。同じくもし返事を一人一人出していらら全額七千二百円にもなつた。

### 物理教室 小柴先生

物理教室に小柴先生を訪問した。先生は二年生の物理の受持である。「出身校は」とお聞きすると東京大学在学中とのお答えである。「この学校の生徒はどろでずかとお聞きしたら、「介らないな。まあ良い生徒でしようね」モジモジと云う。御返事である。これは世細い。二年生に聞くとお名前は「ロクサン」。

本屋先生が教室で読まれた小説中の人物からヒントを得たとう

向井先生は二期期より、一年A・B組の体操を、時間ずつと受け持たれることになった。競走は、「馬」先生に誰も敵わないらしい。

シュトルテ先生は、二年から

と云うから大したものだ。先生のお話によると米國人はまだまだ日本人に対する理解の無い人が多いと云う。実際に理解されないような事をする人が無いのも無い。例えは犯罪、商売不正等で、私達は、このような日本を指導するために、自分のためにも、もつともつと努力をせねばならないとおつしやうだ。

今度シュトルテ先生は訓育主任に復職され、物理の先生として小柴先生を新しく迎へることとなつた。

高一一年までの社会倫理と、三年B・C組の音楽を受け持たれた。「僕の音楽は素人じやないぞ。やつて居るのを聞いて分るんだらう」とは、ますます天狗様りを発揮した所かも知れない。

## 修養会

カトリック信者の懇話修養会は去る九月十七日(日本学園聖堂に於て)シュトルテ神父様の指導のもとに行われた。

ミサ聖祭に始まり、朝食後、二年生の爲にはヘルヴェク神父様の秘蹟についての説教があり、十一時頃解散。

三年生と高等学生の爲にはシュトルテ神父様による説教が三回にわたつてあつた。

最後にベネディクションにあらずかり、三時三十分頃解散。説教の内容は次の通りである。



第一回  
キリストこそ我々の模範であ  
る。  
我々は家庭生活、学生生活、  
愛国主義、悪に対する反抗心な  
どあらゆる面に於て、彼になら  
うべきである。

第二回  
キリストこそ我々の真の友人  
である。我々はキリストが最大  
の苦しみを受けたまへども友情を  
示してくれ、苦難を苦へて、その  
恩に報いるよう努めなくてはな  
らない。

第三回  
母なる公教会に協力して、救  
世の仕事を手伝うべきである。  
これには祈りと犠牲とが最も有  
効である。

### 山岳部

丹沢山より下野へお入りから  
丁度一週目の九月九日始業式  
の日、天狗隊の面々も皆すこぶ  
る元気で登校した。式の後、古  
くて新しい訓育主任兼天狗隊々  
長シュトルテ先生に呼ばれて、  
一向集合、先生は「本日は、兄  
弟校である大甲高等学校で山岳  
部を十一年前に作った記念日だ  
あるから、我々も栄光山岳部を  
作るうと思おう」と語られた。勿  
論我々の大部分はこれに賛成で  
すぐに山頂に集合し、正式に栄  
光山岳部と云うものが出来た。

部長はシュトルテ先生、部員は  
高校生十三名、中学生六名。実  
はこの部は専科生の為のもので  
あるが、特別にこの大名だけ許  
可されたのである。それから山  
の男の十の旋が全員により唱え

### 新しい部について

九月二十七日水曜日朝礼の  
際、新しい部について発表があ  
った。これは演劇部(Dramatics  
Society)合唱部、演劇部は  
本堂先生の御指導のもとに一週  
一回集つて脚本の研究を始め、  
説明、効果、舞台装置、扮装等  
演劇に必要な事を研究し、更に  
実際に演出せしめたり劇曲を書い  
たりする。そしてこれらの研究  
を實際に生かした劇をもつて、  
アリスマスや、創立記念日学芸  
会等々の活躍が期待される。

合唱部は現在まであったもの  
を新編定さず、部員は一、二年  
生から先生に指定されたものと  
全学年の希望者として構成する。

指導は酒井先生で、めざす所は  
本堂に合唱が出来ようになり、  
生徒の音楽に対する理解を深め  
る事である。

この部は English Speaking  
Society の三年生の部員募集も  
あった。指導はイレンボス先  
生である。

演劇部員には左の諸君が決定  
した。

- 高一年 A
- 田畑晴彌
- 高一年 B
- 中二年 A
- 中二年 C

「我等は山岳を敬愛す  
我等は心身共に清かるべし。  
と唱えている中に、次第に心に  
湧き出し、血汐が湧き上り、心は  
高ぶつた。

「我等は山の男とならん爲に  
全力を盡す。  
と唱え終り、天狗隊の歌を大声  
を張り上げて歌い、丹沢ホーム  
と大甲山岳部へ、新山岳部の発  
足を報告し、解散した。新しい  
山岳部、天狗隊が今後如何なる  
発展をするかは、却と天狗しり  
介らぬことである。

第二学期から二種類の黄紙制  
度がしられた。  
その一は遅刻し左場合、今迄  
の様にすぐ教室に入らず、まず  
訓育主任の巡へ行って、遅刻の  
理由、その処をのぐ、教室に入  
る事を許可する文と、その時刻  
生徒の籍氏名と、「ハンス、シ  
ュトルテ」が記入されるように  
なっている紙をもち、  
第二は各先生の所持されている  
もので、生徒が、授業中に遅れ  
る場合、例えば、授業前又は教  
業中先生によれば又その時間にか  
くられるとか又は又遅れるとか  
それとも、自分の用で遅れた場  
合なども、自分の用で遅れた場  
合なども、その呼ばれた先生から  
遅者の場合は、訓育主任のここ  
ろでもらう。やはりその紙には  
一の場合と同じように、生徒の  
氏名、学年、組と、先生の名が  
記入されるようになっていて、

### 黄紙制度

前、後者いづれの紙も、その  
時間相当の先生に提出する。  
早速についても、何色の紙か  
わからないが、前と同様なのが  
出来るとうである。

### 美術展覧会

九月廿三日、高一と中三の百  
志十四名で上野へ行つた。都美  
術館で一水会展を見終後、国立  
博物館で主として下村鶴山の畫  
作を鑑賞した。

鶴山は、阿含天心を中心とし  
横山大観、未庄若くして死んだ  
菱田春草など、日本美術院を  
創設した人で、近代日本美術の  
大家である。鶴山は、多く人物  
宗教、歴史に題材を求め、技術  
に秀い、畫想が巧みである。

この展の出品は、大は屏風から  
小は軸物にいたるまで十数点で  
あった。「佛誕」「彌法師」  
「白乳」「天心先生」「修羅道卷  
巻」がその主なものだ。「佛誕  
」は禪迦の誕生を画いたもので  
禪迦は蓮花座の上に立つて天地  
を指している。赤っぽい色を多  
く使い、その反、禪迦のまどっ  
ている白布と極めの対称的であ  
る。世才にみえない鶴山の作だ。  
畫曲に画因を求めた歴史物の  
一つが「彌法師」である。河内  
の國富安の里の住人、左衛門の  
財通は、子の徳徳丸が親不孝  
なる由を聞き、それがつくりご  
とであるとは知らず、我が子を  
賣い出してしまった。しかし、  
一度は離して生かすのであるが、親の  
悔として忍び得ず、徳連の四天  
王寺で修行をすることに成った  
一方、罪なく家を出された徳連

丸は、盲目の老農婆にまでおち  
がれて、斯くよく四天王寺の門前  
に詣りか、つた。それは陰曆二  
日の彼岸の頃で、梅は盛りを過  
ぎてちらほらと散る時侯であつ  
た。偶然にも四天王寺で対面し  
た父子は、再び富安の里に帰り  
共に樂しむ住むことになつた。  
これが曲の節である。双曲屏風  
の右が、其節の梅の枝にある盲  
目の彌法師、人生に疲れきつた  
妻で、何かを親すが如く盲目な  
がら遠くに眼を向けている。左  
にあるどんよりとした日影は、  
徳連丸のいたましい人生を象徴  
している。さびしい繪だ。だが  
画面には、描線の細い中にも、  
作者のおかすべからざる力がこ  
もっている。「修羅道卷」は  
幅一尺五寸、長さ三丈二尺余の  
長巻物だ。人間の世の中には無  
妬などに依る争いが絶え向なく  
これ故に人生は修羅道であると  
云う無教の社会観を込にしたも  
のである。画面の中段に、長く  
尾を引いた雲の上で修羅帝が火  
を吐いているところを画き、そ  
の両側に社会の争い、或いは  
不平の戦いかと思われる騎馬戦  
を画き、最後に、聖僧と目を画  
いて終つている。この聖僧と目  
は、争いの後の平安を示してい  
る。

鶴山の秀作に接して、日本画  
の気品にうたれた。それは、な  
んとなく世の落ちつきを与之て  
くれる。

その他、牧養、雪舟、ミレー  
ロタン、モネなどの作品にも  
慕したが、印象は省略する

(KA)